

「静岡モデル」とは・・・津波対策の取組

～静岡県の津波対策の考え方～

本県の津波対策は、レベル1の津波に対しては、施設整備によるハード対策で、レベル1を超える最大クラス等の津波に対してはハード対策とソフト対策を組み合わせた「多重防御」により、できる限り被害を最小化することを基本としています。

～県と地域の取組～

地域の特性を踏まえた最も相応しい津波対策を「静岡方式」と称して県下全域で展開しています。具体的にはレベル1の津波に対して海岸、河川管理者が行う施設整備、レベル1を超える津波に対して被害の軽減を図る静岡モデル」の整備、「警戒避難体制の整備」など、ハード・ソフト対策を地域の歴史・文化や景観等との調和が図られるよう、住民の意見を取り入れ、市町との協働により実施することとしています。

～静岡モデルの推進～

震源域に近く、津波の到達が早い低平地に人口・資産が集中して、広範囲に甚大な被害が想定される本県の特性を踏まえて、レベル1を超える津波に対しても被害の最小化を図るため、既存の防災林、砂丘、道路等の嵩上げや補強をおこなう「静岡モデル」の整備を推進しています。

